

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する 研修開発と評価制度構築」

調査の概要



◆課題認識

- アクティブラーニング形式である即興型英語ディベートの指導ができる教員が少ない。
- 教員の学びによって得られた能力や成果が見える形で実感する機会が少ない。

◆調査研究の目的

- 研修プログラムの開発・実施
- 評価の制度構築

◆連携機関

- 神奈川県教育委員会
- 群馬県教育委員会

◆調査研究の方法

本事業では、アクティブラーニング形式である即興型英語ディベートに着目し、教員自身のディベート実践、生徒への指導（ジャッジ）方法の習得のための研修を開発する。また、教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組みとして、表彰と認定制度を構築する。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

1. 教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの提案、実施、調査

- 複数回の研修会プログラム（神奈川県教育委員会による6回の公務参加）
- 単発研修プログラム（H28年度の成果を踏まえた改訂プログラムの提案）



2. 教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築

- 表彰：生徒のアクティブラーニングを促しつつ、指導に関わる自らの資質能力を高めるモチベーション向上のための表彰
- PDA認定教育ジャッジ制度：認定試験自体がアクティブラーニングの要素を持ち、指導力に直結する資格制度

◆成果

- 継続研修における修了証
神奈川県教育委員会での研修において、全6回中4回以上出席した教員に修了証を授与。皆勤賞は5名。
- PDA認定教育ジャッジ試験
受験者数は、述べ39名
（筆記12名、ディベート実技12名、ジャッジ実技のべ15名）。

- 教員の主体的な学び
- 授業への導入

研修



- 主体的な学びの評価
- モチベーションの向上

表彰



- 見える形で成果を実感
- 質の高い授業提供

認定



今後の課題

◆授業導入可能な即興型英語ディベートの教員研修の促進

- 多忙な教員が継続研修に公務参加可能となるよう教育委員会や校長の後押し。
- 教員の主体的な学びの評価として、表彰やPDA認定教育ジャッジ制度の活用。
- より多くの地域の教員が研修参加できるようオンラインシステムを用いた効率化。